

西鉄ライオンズ研究会



LIONS

発行：西鉄ライオンズ研究会

代表幹事 中山 信明
福岡支部長 中山 芳之

横浜市神奈川区粟田谷20-3
TEL 045 (321) 7109
福岡市別府岡地 17-31
TEL 092 (844) 0750

発刊にあたって

ライオンズが実質的にその姿を消したのは、昭和五十三年の十月であった。あれから、もう二年半が過ぎた。また、我旧西鉄ライオンズ研究会も今年には二年目を迎えた。

ところで当西鉄ライオンズ研究会の会員には、東京を中心に、九州以外の出身者が多い。

むろん、当研究会発足の発端は在京ファンによるものであるが、それについても福岡支部を除き、東京においては過半数が九州以外の出身者となっている。しかし皆、九州のライオンズ

だからこそ強い愛着を抱き、応援し続けて来た点は九州出身のファンと同じであったし、従って球団移転という暴挙や、その後西武球団がとった行為は許せなかったのである。

マスコミは常に一球団一辺倒の報道を繰り返し、周りの人もそれに乗じている首都圏のなかにおいて、熱心なライオンズファンは生まれ、その数を増していったのである。

また、これらの人の多くはファンとなった切っ掛けのひとつとして、ライオンズ東京遠征の

際、たまたまその試合を見に行つたことを挙げてゐる。本当に野球を見てゐる感じがした、と言うのである。

確かにライオンズの試合には一種独特の雰囲気があった。何しろ熱心なファンが多い。

単に試合を観戦すると言うより、ファン自身、試合に参加しているような感慨をおぼえさせているような雰囲気をおぼえさせた。もし、他のチーム、とりわけ在在がチームの余り熱気を感じさせない、静かな観戦風景に物足りなさを持っている者が、ライオンズの試合を見てこれが満たされ、ファンになつたとて少しも不思議ではない。

思えば、本拠地平和台は別として、どこの球場に行つても、

特別寄稿

ライオンズを取り返せ

作詩・作曲家
中山大三郎

三年前に「連れおれの西鉄ライオンズ」というレコードを出した。西鉄ファンなら、このミニ・新聞をお読みの方なら、多分、全員御存知だろう。私が「うたつくり」という商売を抜きにして作った、はじめてのうたである。

だれに怒つていいのかわからないが

おれの西鉄ライオンズ もうなくなつた。一と、唄いだす。あのうたである。当時、北九州は大水不足にもかかわらず、まアまア売れた。

本当のところ、私は三十万くらいは売れると思つていた。あの全盛時代のライオンズを知っている人なら、そのライオンズの熱狂的なファンなら、まちがひなく、涙をして買つて、うたつてくれると信じていた。「GOGO掛布は三十万枚売れた」

西鉄ファンは、あの時点で、何もかもあきらめて、さめきつて、巨人ファンにでもなつていたのだろうか。淋しい感じがした。

そのあとの西武への身売り話には、ふれないでおこう。あの

三壘側の客の入りが一壘側のそれを上廻ることが多かった。それだけ全国に幅広く、本当に熱心なファンが多かった証拠である。だからこそまた、西鉄ライオンズ研究会が誕生し得たとも言える。

さて、この機関紙の発行については、昨秋幹事会のなかで提起され、会員への有効な通信手段として、また、より本格的な活動をめざす上でも、当研究会の考え方を広くアピールする必要があるとの点から、当初、本年三月を目途に発行を予定していたものの、年度末等々の多忙や集人編集による不手際等相いまって、ようやくシーズン後の六月発行へと漕ぎ着けた次第で

あります。今後の発行間隔などについては、年二・三回を目途としながらも、詳細な事については今だ未定の状態ですが、会員諸氏においても、言いたい事を内面に、うつつ積ませず、正直に吐露できる場としてぜひ、大いに活用して頂きたい。

その為にも、編集担当者一同努力を重ねる所存ではありますが、同時に広く御意見等お寄せ下されば幸いです。

当研究会発足の足掛かりのひとつとして、意義あるものへ育て上げたいと思ひます。

何卒、よろしくお願い申し上げます。

のだったので、二十万円をドブに捨てるつもりで、一度も球場に行かなかつた。ちなみに、その席は、54道路10段、シート番号6と7であった。今年更新しなかつた。

むかしのことはもういい。これからのことを考えよう。もう一度、九州にライオンズを作り直そう、とりあえず、西武から「ライオンズ」というニックネームをとりもどそう。いまの球団に栄光の「ライオンズ」を名乗らせたくない。今、何を言つてもグチになるが、それが「西鉄ライオンズ」が青春のすべてだった私の、いつわりのない気持ちである。

こういうのはどうだろう。端

国敗れて山河なし

スポーツライター
今西良光

国も台湾も、いい選手が多いというし、野球熱も大変なものらしい。そこで、それぞれ球団を一つか二つ作って、九州に一つ、合計四つを近い将来に発足させる。そして、セ・パ共に八球団としてみたら、何なら、中国にも一つあってもいい。大きくアジア・リーグなんて、いいと思うのだが……。

数年たてば、そんな計画が具体化しそうな気がしてならない。今のところは、私は、さすらいの野球ファンである、中西・真弓・竹之内・若菜・加藤・竹田・片岡がいるから阪神ファンであり、基がいるから大洋ファンであり、稲尾がいるから、その弟子の小松あたりを応援し、関口・仰木・柳田がいるから近鉄、三輪の広島、船田のヤクルト、といった具合である。

博多に行ったときは、中州のドーベルで飲む、池水の店である。

そうだ、とりあえず、ぬれぎぬを着せられた、最も数の毒な彼の「永久追放」を何とかしなければならぬ、これこそ、急務である。

これをすつきりさせるためには、九州の旧ファン・マスコミの人たちに、あたらしい運動にとりかかることを切望する。



去年の五月二十三日亡くなった大下弘さんの葬儀のとき、葬儀委員長をつとめた元西鉄ライオンズ渉外担当の宇高勲さんがその七ヶ月後の十二月二十七日に亡くなり、同じ日に名二軍監督だった重松通雄さんの訃報に接した。

奇しくも西鉄ライオンズ栄光の歴史にピリオドが打たれ、ライオンズと名乗るものの同名異人の西武が登場した年に、三球人が逝ったということに、ぼくはライオンズ時代の終焉(しゅうえん)を見る思いがした。

宇高さんが、豊田、玉造に代表される板東武士の送り手なら、炎天下の香椎球場でそれらを鍛えたのが重松鬼軍曹であり、若柳子を引っ張ったのが大下さんといったじあいだった。三者二

様に、史上最強の軍団「西鉄ライオンズ」の栄光に大きな役割を果たした。

それなのに二人の晩年がそう恵まれていなかったのが、ぼくにはたまらなかつた。宇高さんには悪いが、大下さんの葬儀委員は、宇高さんがやるべきでなく、プロ野球界にしてコミッショナーがやるか、せめてバ・リーグ葬にしてバ・リーグ会長がやるべきだつたと思う。

十六年前、当時西鉄ライオンズのヘッドコーチだった若林忠志が亡くなったとき、ご遺族はよもやプロ野球葬にしてもらえんとは考えてなかつた。望外のプロ野球葬が営まれてびっくりな

さつていたが、若林さんと比べて大下さんが、プロ野球史に印した足跡において見劣つていたとはだれも思わなかつた。

むしろ戦後の爆発的チームを呼び起こした点では、大下さんの青バットの

の方が、若林さんの七色のピッチングよりも、はるかに大きなエネルギー

だった。それなのにである。一



葬で、大下さんがそうでなかつたのは、帰結するところ、故人の業績によって左右されたのではない。後押しするチームが存在したかどうかだったのである。若林さんのときはまだ西鉄ライオンズが健在を示していたが、大下さんのときは消滅していたということなのだ。

宇高さんの葬儀もまた寂しいものだった。葬の忙しい最中で、みんな迷惑をかけると思

い、出来るだけひっそり葬つて

くれという故人の遺志だつたというが、西武ライオンズからは根本監督の供花があつただけである。世が世ならライオンズ球

団葬は済まれたであろうに、祖国を失った民族あわれの感だつた。



重松さんは旧ライオンズの地元で亡くなったので、その点はまだ賑やかだつたと聞くが、祖国をなくした民族あわれといえ

ば、中西太さん、豊田聚光さん、稲尾和久さんもそうである。

中西さんは名門タイガースの新大物監督、稲尾さんは中日ドラゴンズの投手指図役として

重き存在をなし、豊田さんも第一級の解説者として活躍中だ

が、考えてみれば西鉄ライオンズ黄金期を築いた二人とも、現

役引退試合をやつてもらつていない。豊田さんはその前にスワローズへ移り、中西さんは黒い

葬事件で追われた形となり、稲尾さんのときには中村長芳とい

う男に譲渡するので、それどころではなかつた。

いまさら西日本鉄道に対して

中村長芳ごときになぜ光つたんだといつてもはじまらな

が、悔やんでもあまりある痛恨事である。なにもこれは亡くなった大

下さん、宇高さん、重松さんやここに名をあげた中西さん、豊

田さん、稲尾さんにとつて

だけでなく「」

の花文字を胸マークにつ

けた西鉄ライオンズOB

のすべてにおいてそうなのである。

いまや彼らには、彼ら自身の

心には故郷ライオンズはない。



〈トピックス〉

故大下弘さんの野球殿堂入りが決まり、後楽園球場で行なわれる今年度のオールスター戦の試合前に、その記念セレモニーが開かれる事になりました。あれほど偉大な業績を残されたにもかかわらず、亡くなるまで野球殿堂に入る事なかつた大下さんに追悼の意をも含めて当日は外野スタントより心からの声援を送ります。

博多っ子純情

主の去った平和台に、二度目の春が巡ってまいりました。私達にとっては、まだ長い冬は始まったばかりのはずですが。

最近、私達の週回の動きが俄かに活発化してきました。「研究会」結成当初は球団運動の「ささやか」な一つとして始めたものが、次第に大きな流れとなつていくのがよくわかります。

昨年の12月には、「九州に球団を求める会(西川弘希会長)」が発足して、以前より私達と行動を共にして来た「九大ライオンズ研究会」O B会を合わせると、ようやく三つの団体が出来たこととなります。ミニ・市民運動の玉子が、やっと「孵化」して「ビヨコ」となつたわけです。我々の「ビヨコ」には、育つていく為の環境作りが必要のほうです。「環境」とは九州、とりわけ地元博多のみならずの熱意です。「広島カープ」の優勝には、二十年以上にもおよぶ市民の熱心な応援があつたからこそです。

昔から「親獅子は我が子を千尋の谷底へ落として、はい上つて来た子のみ、自分の子供とする」。そうではありませんか。我々の「獅子の子」は、必ず「百獣の王」となつて谷底から上つて来ます。もつとも、どこぞの「白い犬の子」は二度と谷を上つて来る事は無いでしょう。

さて、「球団を求める会」とは西武に対する取り組み方など西武資本下の関東の私達とは若干の立場の違いはあるようですが、基本的には私達と同一レベルと考えています。西鉄ライオンズ研究会は今後もあらゆる機会を通じて、共に運動を続けてゆきます。「獅子の子」を、「百獣の王」にする為には、まだまだ多くの難関が山積されてはるはずですが、私達は決して挫折したり、逃げ出す事もなく、根気よく気長に運動を進めて行きます。今、私達にはもうこれ以上失うものはないのですから……

「博多山笠」は、数日間の祭の裏に一年間の準備が必要であると聞いています。「九州人の気性は熱し易く冷め易い」などと言わずに気長に、執念深く、無理せず、九州に球団を、そしてその名称が「ライオンズ」となり、近鉄を、阪急を、読売を、阪神に勝つて、もう一度、今度こそ平和台球場でライオンズ選手手の優勝の場面を見るまで、市民の中に私達の運動を広めてゆきましよう。

当研究会では、今年より事務局を設置し、会員に宛たハガキ等による通信費及び、映画、写真等の活動記録、その他資料集収等にかかる費用については事務局扱いとし、ここから拠出することにします。

事務局設置のお知らせ

極めてしたごと、御了承の程よろしくお願い申し上げます。運営費につきましては、幹事より毎月会費(千円)を徴収し、これに当てますが実際には不足することも予想され、勝手ながら少額でも会員の皆様のカンパが頂ければ幸いです。

事務局長



西鉄ライオンズの歌

西鉄ライオンズ、ライオンズ
 光輝照りて
 王者の姿
 九州全土の
 勝利を獲う
 ライオンズ
 ライオンズ
 ライオンズ
 打ちたり
 打ちたり
 打ちたり
 正しく強く
 王者の微笑
 真夏の空も
 秋の夕日も
 ライオンズ
 ライオンズ
 ライオンズ

打球

自己負担で賄っていました。しかし、会員の増加、活動の活性化に伴い、今後は必要となる額も当然増えるの見込まれ、個人による対提では、無理、迷惑が生じるとの立場を考慮し事務局

昨年十月十三日付のフクニチスポーツの、当研究会に関する記事のなかで、西武球団の謀臣は、我々を指し、「マイナスの育

春を送っている」と述べている。実生活そのものは別として、ことプロ野球に対する我々の感情としては当っている。

今、大きく発展したプロ野球は、大衆レジャー文化の一端を担うものとして完全に定着している。

このようななかで、かつて我々自身も、ライオンズを応援することを楽しみのひとつとしていたし、生活の一部にまで溶け

ではなかった。詳しくは研究会声明文や、九州大学ライオンズ研究会O B会制作の「ベースボール・フクオカ」を見てもらえば分かるが、球団買収移転がなされた後の西武がとつた行為、すなわち新球団と宣伝し、これにもとづき旧ファン不要の発言、主力選手の放出を重ねながら九州色の一掃を計った反面、ライオンズの名前はそのまま、更には球団紹介のパンフレット等には、都合よろしくリーグ制覇五回、シリーズ制覇三回と、西鉄ライオンズの歴史を引用しているのである。何んたる矛盾。

こうして、失望すると言うより腹立たしくなる程の大きなマイナスの要素を西武は我々に提供したのだ。これでは西武の負けた日には、祝砲の一発もぶつばなしたくなるのも道理である。

もし西武が頭初うたい文句のもとに、新しい球団愛称を名乗り、五十四年度リーグにおいて過去の戦績を勝負から、名実共に新球団としてスタートしたならば我々も、赤の他球団の西武に対しては、表で立った抗議活動をせずに済んだのである。

西武ライオンズは似非ライオンズ



S 54・10・25 朝日新聞・東京版夕刊

今日の 問題



娘の通っている高校の文化祭を興に行ったら、ホールで生徒たちによるオーケストラ演奏をやっていた。

感じのよい女生徒の指揮者がタクトを振っていたが、難しい個所でテンポを間違え、音が混乱、曲はストップしてしまった。

暗れの舞台でのミス、どうなることかとみていたら、その女生徒は聴衆に向か

やかに失敗の原因を説明、「今度ははうまくやりますから」と、わるびれずに再び演奏を始めた。そして二度目は無事にすませて盛んな拍手を浴びた。

聴衆の中のある父親。「嫁にするならああいうタイプの子がいいね。人生、ヘマをすることよくあるさ。大事なものは失敗してもパニックにならず、さわやかに立ち直る気質だ」

「孕まだって同じですよ」とある母親。「どんなに秀才でも、たまにトラブルが起こると度を失って笑いを忘れるような男は最低」

「会社の仕事仲間もそうだなあ」と別の男性。「事がうまくゆかなくなつたような時、すぐ意気消沈したり、不きげんになつたりするやつは願ひさげだね」

それから、先生を困んで、今の学校制度、試験制度が「間違いの少ない人間」を育てることへの力を入れているのは問題ではないか、という議論になつた。

ミスのない子

「ミスのない子が優等生、という教育ばかりやっていると、社会でモノをいう独自の芽がつかれてしまいますよ」

「子供の時から受け身一方の訓練をされるから、転任のあいさつで、大過なくすごすことが出来……」というふうなあいさつより出来なくなるのだ」

「世間に出て最も役に立つのは、危機対応力、失敗や不運をはねのける能力ではないか」

「昔のライオンズのように、三點や四點とられても、すぐ五六點とりかえすタイプが、人でも組織でも人気がある、という文化にしたいですね。いまの一流官庁、一流企業のおえら方には西鉄ライオンズ型が少ないのは学

校教育のせいでしょう」

先生の意見は「たしかに小学校から大学まで、個性や気力と関係なく、知識の量、正確さだけで、子供を秀才、凡才に選別してゆくのは問題があります。ただ実際問題として、敗北から立ち直る力というものは、採点が極めて難しいし……」

結局、日本の社会が、たとえ就職試験のような時、学歴とか成績よりも、人間の総合的な能力をもっと重視するようにすることが先決であろう。

S 55・3・13号週刊現代より

豊田 殿さま、金持ちのキャンブだね。

森 西武は？

豊田 話題にするチームじゃないんじやない？一番ひどいよ。オレは正直いって、今の西武がオレのかつてのふるさとだとは思いたくないもんね。

森 ビッチャーにしろ、若いいい素質をもった人はいるんだけど、ポリシーがない、フロント監督が何を考えているのかよくわからない。



54年度 注目の移籍選手成績表

選手名	試合数	打席数	打・数	得点	打点	打率
竹之内 基	112	447	401	55	66	0.282
若菜 弓	112	444	373	64	65	0.295
真 弓	112	422	386	38	42	0.303
タブチ	125	559	517	55	51	0.275
ヤマザキ	107	429	382	59	69	0.262
ヤマザキ	79	337	286	54	46	0.332
	安打	2塁打	3塁打	本塁打	併殺	盗塁
竹之内 基	113	18	2	25	8	4
若菜 弓	110	22	2	15	7	16
真 弓	117	10	1	9	10	8
タブチ	142	15	3	13	9	20
ヤマザキ	100	14	2	27	9	0
ヤマザキ	95	16	2	12	8	7



編集後記

巻頭の、「発刊にあたって」でも述べているが、いざ準備を進めてみて、改めて素人の悲しさというか、編集の難かしさが身にしみた。

言いたいことはたくさんあるのだが、さて記事にしようとする、どうもうまくまとまらな

い。 割り振りをどうするのか、スペースをどの位とるか、などと四苦八苦している間に時間は流れる。そうして何んとか目途がついた時は、嬉しさというよりほっとした感が強かった。

さて、今後は会報であるからには会のニュースはもとより会員各自の意見や、九州での情勢他組織の行動など多彩にとり上げていきたいなどと、期するところ大ではあるが、何分にも不馴れな点が多く、お許しを賜わりたい。

出来事、思った事等何でもいから、積極的に投書して下さい。また特別寄稿及び追博文をお寄せ下さった、中山大三郎さん今西さんにはこの場をかり、厚く御礼申し上げます。